

会報 (第13号)

目 次

特集.....	2
変わりゆくアルゼンチンの農牧地主	
特別記事.....	3
山下理事急逝	
アルゼンチン政治・経済速報.....	5
政治経済の動き	
日ア経済関係	
アルゼンチン事情.....	7
ウイリアム・H・ハドソンの作品	
における女性像	
タンゴ物語(3)－ボカで咲き狂うタンゴ	
現地だより.....	9
協会ニュース.....	10
通常総会開催	
ペヘレイ・ツアー	
文化行事.....	13
タンゴ演奏会	
タンゴとマテ茶の旅	
お知らせ.....	15
人事往来.....	16



法社
人団
日本アルゼンチン協会

会報第十三号

一九九六年七月十六日発行

編 行
集 人
FAX
電 話
千代田区
日比谷内幸町一ノ二
谷ダイビル一七〇五号室
(三五九五)
三九三三番
秀 透治

野 部 村
渡 部 村
野 部 村
透 治



ペヘレイ・ツアー 安田養殖場 P.12



通常総会 斎藤会長、近藤副会長、山下理事 P.10

特集

変わり行くアルゼンチンの農牧地主

日本を除く外国人投資家が参入

アルゼンチンのエスタンシェロ（農牧地主）の地図が、このところ急激な変化を見せている。

世界の金融王ジョージ・ソロスが、アルゼンチンにおける農牧地主のNo.1に躍り出したとの情報（既報第12号）に関係者は驚きの目を見張ったが、現地週刊誌NOTICIAS（斎木理事訳）によれば、外国人投資家は、ブラジル、チリ、アメリカ、イタリー、スペイン、ドイツ、フランス人に及んでいる。さらに韓国、中国人も参入しているとの情報もあるが、さぜか日本人の姿は見当たらない。

著名な外国人投資家は

- ・米国CNNのオーナー、テッド・ターナーは100万ドルを投じてパリローチェ近郊の農牧地を物色中
- ・スペインの有名な歌手フリオ・イグレシアスはマル・デル・プラタに2,000ヘクタールの土地を購入した。
- ・オーストリアのダイアモンド鉱山主シェルノット・スワロフスキーは、パリローチェ近郊とコルドバ州に4,900ヘクタールの土地を購入した。
- ・イタリア ファッショント界の大物、ルシアーノ・ベネトンはネウケン、サンタクラルス、チュブット、リオネグロの4州で685,000ヘクタールに所有地を拡張

主な原因是昨今の国際市場に置ける穀物相場の異常な高騰と、アルゼンチン農牧業界の資金不足による農地価格の下落と見られている。

なぜ外国人が土地を買いに来るのか？

先日ブエノスアイレスを訪れたジョージ・ソロスの発言にも見られる通り、ドミンゴ・カバーロ経済大臣の経済政策に対する信頼が、まず挙げられるが、それだけではない。世界的食糧需要の増大を見越したリスクの分散を図っているのだ。さらに農牧技術者協会のパブロ・ベルネンゴはこう指摘している。「アルゼンチンでは生産者の債務増大により、土地実勢価格の数分の1の価格で購入できる」

わが国の農地は規制により事実上、売買が禁止されているので価格の比較はできないが、欧州の農地はヘクタール当たり、20,000から25,000ドルするのに対し、アルゼンチンでは僅か1,000から3,000ドルで、しかも欧州よりずっと肥えた土地が手に入ると云われている。ブラジル人はブラジル南部の価格の半分でアルゼンチンのメソポタミア地区を購入し、米の生産を行っている。

アルゼンチン国内でも新たな農牧地主が現れている。伝統的な穀物商や莊園主に代わり銀行、製造業の株主、実業家、金融界の企業家、不動産業者たちが相次いで土地

を所得している。

これら投資家を魅了している最大の土地需要は、トウモロコシ生産用地のパンパ・ウメダ（湿った農牧地）の心臓部に集中している。ベルガミーノを中心にコロン、サルト、フニン、ロハス、アレシフェ、チャカブコとサンタフェ州北部にまたがる半径80km圏内の最も肥沃な地帯である。

農牧地の売買で豊富な実績を誇るエルサルデ・ガラハン社長のアレハンドロ・エリサルデは

「この地帯は世界の人口増加による需要増大と穀物在庫の減少による穀物価格の高騰により大変魅力のある地帯となった。膨大な需要が予測されるアジア市場の出現と欧米の輸出補助金削減の動きで、アルゼンチンは世界で最も輸出競争力のある国となった」

と述べている。

わが国の穀物消費量の依存率は、85年以来72%（コメの収穫量が激減した93年は76%）となっている。中国をはじめ東南アジア諸国の経済発展は、食生活の向上をもたらし穀物需要が爆発的に増大すると予測されている。21世紀には世界的な食糧危機がやってくると、ワールド・ウォッチ研究所のレスター・ブラウンが警告している。

こうした背景が外国人によるアルゼンチンの農牧地への投資に走らせている最大の要因だ。にもかかわらず超穀物輸入大国であるわが国からの、アルゼンチンへの投資の動きはまったく見られない。

昨年9月、訪日したソラー農牧水産長官がけげんな顔つきでこう語っていた。「穀物を大量輸入している日本が、どうしてアルゼンチンのパンパに投資しないのか？」

山下理事 急逝

5月22日の当協会総会において理事に選任された、元駐アルゼンチン大使、東宮侍従長の山下和夫氏は、25日心不全のため急逝された。28日、四谷の聖イグナチオ教会で盛大なミサ・告別式が行われ、当協会から斎藤会長ほかが列席した。式に先立ち皇太子、同妃両殿下が靈前に献花された。

外務省同期生代表として、当協会の藤本理事（元駐アルゼンチン大使、世界の動き社理事長）が弔辞をのべられ、参列者の涙を誘った。哀悼の意をこめて、ここに再録します。

弔辭

藤本芳男

山下君 君がこんなにも突然に神の御許に召されようとは思いませんでした。啞然として神のみわざを耐え忍ぶばかりです。天の思し召しとはいえ、まことに無念でなりません。奥様お子様、ご遺族の皆様のご悲嘆に深くご同情申し上げ、心からお悔やみの辞を申し上げます。それにもしても、最後は眠ったままの大往生であられたと伺い、これも山下君に対する神の摂理であったかと、せめてもの安らぎを感じます。

山下君、という呼びかけよりも、カトリックの靈名であるヨハネ・ペトロとお呼びした方がぴったりしているかも知れません。昭和3年にこの世に生を受けられてからこの方、ご家庭や学校において敬虔なローマ・カトリックの信仰に支えられた生い立ちを享受され、またお父上の御仕事の関係で早くから海外での生活や洗練された国際感覚を身につけて来られました。幼少の時代にヨーロッパ、特にフランスでの生活が長かった所為もあって、山下君のフランスについての卓見と日仏関係についての見識は他者の追随を許さないものがありました。ですから、山下君、いまここで、君の名前はヨハネ・ペトロよりもフランス語読みのジャン・ピエールの方がよかったです。どうぞ申し上げて置きます。

私達昭和27年4月に入省した18人は翌年、希望と抱負に胸をふくらませながらそれぞれの研修国に向かったものでしたが、山下君はストラスプール大学で2年の勉強を終えられたあと、ラオス、スペイン、フランスなどの大使館勤務を経て、ザイールで最初の大使を勤められ、その後モロッコ、アルゼンチンと合計3箇所で大使を勤められました。またその間、本省では、欧洲との経済交渉や儀典関係の責任者として活躍されました。

さらに、外務省退官後は宮内庁東宮侍従長として皇太子殿下および同妃殿下のために精力的に活躍されました。新聞では、皇太子さまと雅子さまの縁結びに山下君の力添えがあったと報ぜられましたがこれだけは奈辺に真実があるか誰にも分らないまま幕が引かれてしまいました。

東宮侍従長という重責に厳しい責任感で臨まれたことが伺えます。

山下君は、皇太子および同妃殿下が外国訪問をされるときには何時もお供をしていましたが、長年培ってきた国際感覚と外交上の人脈によって両殿下を見事に補佐されたと聞いています。そのことを立証するように、このごミサには天皇家以下大勢の皇族の皆様方から見事なお花が寄せられています。

山下君の外務省での最後のポストはアルゼンチンでしたので、丁度私が後任者として仕事を引き継いだわけですが、君の日亜友好関係の強化に対する熱情には深い感銘を受けました。とくにアルゼンチンの要人知己との友好関係を最後まで大切にし、手にあまる程の宿題と貴重な助言をくれました。それもこれも本当に昨日のことのようで、感慨無量です。

再来年1998年は日本とアルゼンチンとの修好百年記念の年にあたります。山下君には、その日亜友好への見識と経験から、百年記念の実現に向けて中心的役割を果たすことが期待されていた矢先のことありますので、このように急逝されたことはまことに痛恨の極みであります。

ジャン・ピエール山下君、皇族の皆様方やわれわれからお捧げした花に埋もれてどうか安らかに眠って下さい。天国は君のものです。私たちもいずれは、そこに昇って21世紀のことを話題にするかも知れません。

アディオス、ジャン・ピエール。

アルゼンチン政治・経済速報

東銀リサーチインターナショナル
研究理事 小林晋一郎

◎政治・経済

- カバロ経済相は経済省の合理化を目的として組織改革を実行した。それによれば、①従来、財務庁が担当していた国税庁を大臣が直接担当する ②商業・投資庁と鉱・工業庁を統合し鉱・工業・商業庁とする ③運輸・エネルギー庁を廃止し公共事業庁に吸収する というもので国税庁を大臣直轄とすることで税収確保に一層の努力を傾注する姿勢が示された。
- カバロ経済相は企業家を前にして講演を行い、景気回復は予想を上回るベースで進んでおり本年の経済成長率5%の達成は可能であろうとの見解を明らかにした。
- 脱税防止を狙い政府は納税証明書制度を発足させた。航空券購入、不動産購入、銀行取引開始、保険契約、水道・ガスなど公共サービス申込みなどの際に納税証明書の提示を義務づけることとした。企業からは実務的に対応が困難との意見が出されている。
- アルゼンチンを訪問したIMF カムデス総裁は記者会見でアルゼンチン国立銀行を含めた公営銀行の民営化、司法制度改革、汚職の撲滅などを訴えた。従来、アルゼンチン国立銀行の民営化に関しては政府から一切公式表明がなかった為、総裁発言はアルゼンチン国内に衝撃をもたらした。なお、カバロ経済相はアルゼンチン国立銀行の民営化を検討している事を認めた。
- アルゼンチンに対する外国投資家による不動産投資が活発となっている。最近の穀物価格の急騰による将来の食糧不足を見越すものとも思われ、農地価格が急騰している。投資家のなかには、ジョージ・ソロスやベネトンの名前も見られる。
- テキーラ効果（メキシコ通貨危機の影響）を受け流動性不足に陥り、中銀により昨年4月に営業停止命令を受けていた地場銀行 Banco Integrado Departamental (BID) は4月に破産宣告された。同行経営陣は、中銀の圧力により経営破綻に陥っていた銀行2行を吸収合併したことによるものであると主張した為、中銀総裁以下が国会で証言を行った。
- テキーラ効果克服後、昨年8月以降ドイツ、オーストリア、イタリア等で次々と起債してきたが、本年4月には500億円のユーロ円債（期間5年）を発行、5月には15年のマルク債の発行に成功した。15年物は対外債務救済のため発行された Brady 債に次ぐ長期国債となった。アルゼンチンの起債実績は、92年1,619百万ドル、93年6,308百万ドル94年5,319百万ドル、95年5,950百万ドル、96年1~3月 1,974百万ドルである。

- ペルー、エクアドル間の国境紛争の際に、エクアドルがベネズエラ経由でアルゼンチンから武器を輸入した事実がエクアドルの証言で明らかになった。事実究明を求めてペルーのフジモリ大統領はマルタ・チャベス国會議長を特使としてアルゼンチンに派遣した。カミリオン国防大臣の責任が追求されている。
- ペルー石油 (Petro - Peru) 所有のラ・パンピジャ精油所の民営化入札にアルゼンチン石油会社YPFはスペインの石油公社REPSOL等と組んで参加、落札した。落札価格は180百万ドル。
- 今年の大きな政治的議題であったブエノス・アイレス市長選挙が6月30日行われ、予想通りラヂカル党のデ・ラ・ルアが39.8%の得票で当選確実となった。(7月1日現在) なお、第2位はフレパソ党のラ・ポルタ (26.5%)、第3位は与党ペロン党で現職ブエノス・アイレス市長であるドミンゲス (18.8%) であった。
今回のブエノス・アイレス市長選挙は従来大統領による任命であったが憲法改正により選挙によることとなり、初めての選挙となった。
同時に行われたブエノス・アイレス市評議会議員選挙ではフレパソ党 25議席、ラヂカル党 19議席、ペロン党 11議席、ヌエバ・ディリヘンシア5議席となった。

◎日ア経済関係

大来財団日本評議委員会事務局長
斎木茂治

- JICA ア国第2次経済開発調査（通商：大来II調査）
本年6月JICA木島理事、(財)国際開発センター河合会長以下総勢10名よりなる調査団訪ア、ア国政府経済省貿易投資庁レグナガ長官に最終レポートを提出すると共に、首都ブエノスアイレスをはじめメンドサ市（ブエノス北西約1,700km）、コルドバ市（ブエノス北西約800km）にてア国経済省・JICA・大来財団共催によるセミナーを開催した。
セミナーはア国産官学の関係者が、ブエノスアイレスではカバロ経済大臣、荒船駐ア日本大使以下約300名、メンドサ、コルドバ両市では担当大臣以下各々約300名、200名が出席、大盛会にて好評を博し、ア国側の本調査に対する関心の深さを示した。
本調査は今回を以て一応終了し、今後ア国側の要望に応じ日本の専門家派遣、ア国関係者の研修実施等フォローアップがなされる見込み。
尚、本レポートでは日本をはじめとする東アジアへの輸出拡大及び同地域への投資増大を目指し下記の4課題に係る調査結果報告並びに提言を行っている。
課題1：東アジアへの輸出及び東アジアからの投資拡大のための制度的支援
課題2：東アジア市場への輸出拡大のための競争力強化
課題3：中小企業の強化・育成

課題4：輸出拡大のための運輸体系整備

○大来財団の活動

- 1) 大来財団は上記大来Ⅱ調査の実施に当たり、民間側のコーディネーターとして終始協力してきたが、特に本年6月のセミナー実施に際し、メンドサ、コルドバ両市でのセミナーの実質主催者として活動した。更にア国中央政府並びに州政府の要望に応じ、各州にてセミナーを続行、レポート内容の普及に努めると共に、本調査フォローアップへの協力をを行う予定。
- 2) 大来財団は予てより牛肉、林業・パルプ、鉱業製品の日本をはじめとする東アジア向けマーケット調査を行っており、既に牛肉に係るレポートを完成、好評配布・発売中にて、近々林業・パルプ、鉱業製品に係るレポートも完成見込み。更に、本年後半は穀物（小麦、トウモロコシ等）、乳製品、植物油に係る調査にも着手する予定。

◎メルコスールがチリ・ボリビアと関係強化

6月25日、アルゼンチンのサンルイスで開催されたメルコスールの第10回共同市場審議会（メルコスール首脳会談）でチリとの自由貿易協定が署名され、またボリビアとの自由貿易協定についての枠組み合意が調印された。

これによりメルコスールの自由貿易圏は97年1月から6ヶ国に拡大することとなり、さらにヴェネズエラ、コロンビア、ペルーも関係強化の動きがあると伝えられている。なお、チリは自国の関税政策がメルコスールの対外共通関税と異なるため関税同盟には加盟しない。

アルゼンチン事情

◎ウイリアム・H・ハドソンの作品における女性像

弘前学院大学教授 佐 藤 幸 正

アルゼンチン生れのイギリスの作家、ウイリアム・H・ハドソン（1841－1922）は死後、デント社から24巻からなる全集を刊行されている。それらは主としてエッセイ、小説それに鳥類学の専門書のジャンルからなっている。ここではそれらの中から小説を取りあげ、作者の抱く女性像に焦点を当ててみたい。

ハドソンの処女作『パープル・ランド』(The Purple Land, 1885) は、1860年代後半から1870年代前半のバンダ・オリエンタル（ウルグアイ）が舞台背景になっている。話の筋はこうである。主人公のイギリス人ラムは、アルゼンチン娘パキタと結婚する。だが、彼女の父に反対され、アルゼンチンに居れなくなり、対岸のウルグアイの首都モンテヴィデオに渡る。彼女の叔母を頼り、恋の逃避行をするのであ

る。やがて主人公は仕事を探しに、新妻をその叔母に預け、バンダ・オリエンタル中を旅する、というストリーになっている。

ラムはさまざまな事件に遭遇しながら、道中、エスタンシアあるいはランチョと呼ばれる牧畜業を営む家に立ち寄る。旅の途中で出会った女性達の中から、ここではトランシータという女性を取り上げてみたい。それは彼女が後作に登場する女性達のプロトタイプ（原型）を秘めているからである。父親バシリオ・デ・ラ・バルカはスペイン貴族の末裔で、モンテヴィデオの社交界では評判の美男子であった。陽気で社交を好んだが、純真で謙虚な気持ちを失うことはなかった。何世代にも亘り諸外国からの侵略を受けた結果、没落寸前に至るが、バシリオ自身も戦傷がもとで、軍隊生活を放棄せざるを得なくなる。40歳の時ある老婦人から親切にされ、その感謝の気持ちから彼女と結婚する。二人は海岸に居を移し、わずかばかりの羊と牛を飼って暮らす。この二人の間に誕生したのがトランシータであった。

彼女は小さい頃、砂丘を散歩したり、野花や野鳥を、そして波を友として遊んだ。時が流れ、彼女が11歳の頃、マルコ（後の将軍）に出会う。このときマルコ15歳であったが、言葉で表現できないほど、彼女に惹かれる。金髪をなびかせ、叫び声をあげながら、波と戯れる姿に、天国からでもやって来た人かと思う。機敏で優雅な身のこなし、輝くサファイア色の目、絶えず変わる表情、貝の持つ柔らかな色合い、シギの鳴き声のような笑い。更にトランシータは優雅な線と完全な色彩を備え、風と日光の精気を捕らえる。半ば人間、半ば天使であった。

彼女についての描写はごく限られ、しかも後年マルコが思い出として語ったものである。しかし、その限られた描写からでも、作者の女性像を垣間見ることができる。世俗を離れ、自然の中に生活を求めていること、純真無垢な天使のような女性であることなど、後作では一層発展した姿に再現されるのである。

トランシータはマルコと将来を約束する間柄であった。だが彼はオリベ将軍のもとで軍隊生活中に、彼女は両親を失い、これがもとで他の男性に嫁ぐ。しかもその男性と間もなく別れ、幼児を残して病死するのである。

◎タンゴ物語（3）

津田正夫

ボカで咲き狂うタンゴ

タンゴがボカで有名になると、タンゴはベリングンデン独特のものではなくなつた。「ソリス・イ・グロリア」と「サン・フェリペ」という、今世紀の初めまで残っていた二つのカフェがタンゴの独壇場となり、ここから幾多の有名なタンゴが生れたが、今ではそれが楽譜として一つも残っていないのは残念である。私は好事家が人からの聞き覚えで音符化したのを聞いたことがあった。曲の名は「ダメ・ラ・ラタ」（1880）「ラ・ケブラダ」「カラ・ペラーダ」「ラ・カナリア」「ペヘレイ・コン・

パパ」「セニオール・コミサリオ」などだが、それぞれに作者不明の詞がついている。しかし後世のタンゴの音楽にみられる恋愛、悲恋、憎悪などは少しもみられず、むしろ政治的、風刺的なものが多かった。メンディサバルの「エル・エントレリアノ」の名曲が生れたのは1896年、ロガッティの「インシスティブル」、ラタサの「オテル・ヴィクトリア」、ラドリサニの「エル・ジョロン」もこの頃に出た。

こういう名曲が続出してくると、それが都心に影響せざるを得なくなった。この頃である。都心の人々は、ボカという異郷のような土地、都心では見られない、血なまぐさい、荒くれ男や女の作りなす港風景、ボカ独特の魚料理などに惹きつけられ、多くの人がボカ観光に来た。ある者は都心から船で、あるいは舗装していない悪道を馬車に揺られてボカがよいをした。そうして、都人のボカ行きは盛んになり、都心の上流家庭の子弟も、そのエキゾティクな、非体制派のタンゴに憧れ、ボカにいって聞き覚えたタンゴを家庭内で黒人乳母とともに、両親の留守を狙ってピアノで鳴らし、両親が帰宅する馬蹄の音と共にピアノを閉め、自室に帰って知らん顔していた時代もあった。

またタンゴを踊る連中は、雨が降ると街が池のようになるボカ、泥溝は家畜の骨で埋まり、家畜の血が流れている「腸の町」に住む人々、女の問題で絶えず刃傷沙汰を起こす人々であるし、またその踊り方が、男は女を抱き、右手は女の背に廻して指先は女の尾蹄骨をしっかり押さえて踊るという、都心の人々からは「寝室でしかみられないような姿態」だったので、人々はタンゴを下等、下品なものと蔑視しきっていた。そういう意味でタンゴの茨の道は、ウィーンの汚い川端から起こった「ウィンナ・ワルツ」の発達の経路によく似た険しい道を通ったのだ。

タンゴが黒人やボカの荒くれ人種から都人の手に移り始めた動機はなんといってもタンゴ曲のピアノ化であろう。年代にして1889－90年頃だったろう。私達はその創始者としてフランシスコ・アルグレアヴェス（名からして英人と土地っ子との混血児、ハーグリーヴスと思われる）の名を挙げることが出来る。また1890年タンゴ・ミロンガが当時人気のあった「ファン・モレイラ」という劇の最終シーンに挿入されたことも一因で、その8年後には、ララーネという作曲家がアポロ劇場に「エン・サラーダ・クリオージャ」という劇の伴奏曲として以来、土地っ子、によるタンゴの作曲が盛んになった。

次回はタンゴがアルゼンチンの社交界に侵入してゆくとっておきのエピソードを、（つづく）

現 地 便 り

◎タンゴ作詞家エンリケ・カデイカモに対する顕彰

去る4月上旬ブエノス・アイレス市内のセルバンテス劇場に於いて、タンゴ作詞家

として著名なエンリケ・カディカモ（96歳）に対し、スサナ・デシベ文部大臣（初の女性大臣）より、アルゼンチン文化功績人間の称号を授与された。

エンリケ・カディカモは1930～40年のタンゴ黄金時代に数々のタンゴ作詞をヒットさせ、なかでもノスタルヒアス（郷愁）、ニエブラ・デル・リアチエロ（リアチエロの霧）、アンクラオ・エン・パリス（パリ滞留）、ポル・ラ・ブエルタ（めぐり逢い）等の名曲を流行させた功績が評価された。

当日同文部大臣も自ら一曲歌うなど、大きな見出しで希有な顕彰式と新聞に掲載された。
(ラ・ナシオ紙より)

◎セーナ・タンゴ・ショー

ブエノス・アイレス市内の繁華街ラバージュ925番の中華料理店CONCORDO（海鮮大酒店「海龍王」）において、毎週木、金、土曜日の3回「セーナ・タンゴ・ショー」を行っている。タンゴばかりでなく、フォルクローレから中国人によるアクロバットや手品、歌を含むバラエティに富んだショーで最後まで退屈させない、楽しいものである。

邦人観光客がよく宿泊するホテル・パナメリカーナ及びホテル・コロンから歩いて半丁の処にあり、食事を楽しみながら気軽にタンゴを聴いたり、見たりできるのが魅力である。
(らぶらた報知紙より)

◎タンゴ・ダンス教室

在亜日会（在アルゼンチン日本人会）では、毎土曜日19:00から同会館でタンゴ・ダンスのクラスを開いている。教師はマリアとカルロス・リバローラである。我々が舞台で観るタンゴは足を上げたり、絡ませたり、極めて官能的で複雑な処から、タンゴ・ダンスと云うと知り込みする仁が多いが、舞台でのタンゴは「ショー」であって普通に踊るタンゴは五体満足な人であれば誰でも踊れるとのことである。

(らぶらた報知紙より)

協会ニュース

◎平成8年度当協会の第40回通常総会開催

前号でご案内の通り、平成8年度当協会の第40回総会（兼理事会）が平成8年5月22日（水）午後2時半より、日比谷ダイビル4階会議室において開催された。実出席29名（他に委任出席63名）が参考し、前年度決算報告、本年度事業計画及び同予算案等が原案の通り承認決定されました。

同総会において、正会員である山下和夫氏（前東宮侍従長）及び小宅庸夫氏（中部電力顧問、前駐ア大使）が夫々理事に選出されました。

なお、同席上で土屋名誉顧問（現埼玉県知事）よりの祝電が披露されました。又、議案審議に先立って、斎藤英四郎会長より、1998年は日ア修好100周年に当たるので、会員各位はこれを念頭におかれて、なお、一層のご協力及びご支援をお願いしたい旨のご挨拶がありました。

本年度の役員、理事等は次のとおりです。（敬称略・順不同）

会長	斎藤 英四郎	新日本製鉄㈱ 相談役名誉会長
副会長	近藤 四郎	元 駐アルゼンチン大使
	近藤 鎮雄	大阪商船三井船舶(㈱) 相談役
専務理事	野村 秀治	元 ロサンゼルス市港湾局 在日代表
理事	高垣 佑	(㈱)東京三菱銀行 頭取
	箭内 陽	三井物産(㈱) 海外統括部長
	藤本 芳男	財団法人世界の動き社 理事長
	風間 孝晴	元 國際協力事業団 理事
	山川 尚義	三菱商事(㈱) 米欧業務室長
	田中 康夫	(㈱)日立製作所 専務取締役
	和久本 芳彦	(㈱)東芝 専務取締役
	松島 宏	住友商事(㈱) 理事
	渡邊 晴郎	丸紅(㈱) 常任顧問
	高野 尚彦	伊藤忠商事(㈱) 常務取締役
	近藤 尚武	日本郵船(㈱) 取締役
	今永 文男	日本水産(㈱) 相談役
	大隈 信幸	日本ウルグアイ協会 会長
	上田 一明	本田技研工業(㈱) 二輪事業本部 米州部長
	佐藤 和男	大阪商船三井船舶(㈱) 常務取締役
	上田 将雄	川崎重工業(㈱) 相談役
	西岡 稔	ダイビル(㈱) 専務取締役
	鈴木 銀生	日本電気(㈱) 取締役支配人
	土屋 桃子	ジャパン・アート・ルネッサンス協会 理事長
	山本 学	上野学園大学教授
	山下 洋二郎	住友海上火災保険(㈱) 常務取締役
	斎木 茂治	大来財団日本評議委員会 事務局長
	小宅 康夫	中部電力(㈱) 顧問
監事	塩見 憲一	(㈱)東京三菱銀行 中南米部長
	安田 直弘	(㈱)安田 代表取締役
名誉顧問	土屋 義彦	埼玉県知事
顧問	薄井 康夫	元 國際コンテナ輸送(㈱) 社長

◎アルゼンチン革命記念日（5月25日）祝賀レセプション

5月24日（金）（1日繰り上げ）昼アルゼンチン大使公邸において革命記念日祝賀レセプションが、ホスト役のサンチス大使ご夫妻により行なわれ、各国大使及びわが方政界、実業界人が多数参集し、和気藹々の盛会で、当協会よりも多数の理事、専務理事等が出席した。

◎第8回アルゼンチン大使館－長田小学校友好親善記念日の集い

6月1日（土）境町立長田小学校（茨城県猿島郡）において、恒例のアルゼンチン大使館と同小学校との第8回友好親善記念日の集いが開催され、リード公使、野本作兵衛氏（同校卒業生、100歳）、当協会専務理事等が出席した。当日同校生徒による寸劇「夕鶴」の上演及び音楽演奏、カミニート齊唱（和、西両語）が行われた。

長田小学校とアルゼンチン大使館との結びつき（会報第6号及び9号のドン・サクベイ・ノモト特集号参照）は、昭和9年迄さかのぼる長い歴史、経緯があり、同小学校は、歴代の駐日アルゼンチン大使と60余年間友好親善関係を持続しており、毎年6月2日を「アルゼンチンの日」として記念の集いを続けている。

◎土屋埼玉県知事（当協会名誉顧問）の再選

6月23日に実施された埼玉県知事選において、土屋義彦氏が再選されたので、当協会斎藤英四郎会長より祝電をお届けしました。

◎ペヘレイ・ツア－33名 美味と唄を楽しむ

アルゼンチンの魚が、関東平野の一角に20万匹。協会会員と特別参加のフラギオ元大使令嬢マリアさんを含め33名は埼玉県大里村の安田養殖場を訪れ、その偉業を実感した。4月20日（土）、曇天のもとペヘレイは、大水槽のなかで恥ずかしそうにわれわれを迎えてくれた。

「もともとペヘレイは臆病な魚です」と案内の安田（協会監事）さん。ミシンコで養殖している稚魚から、キロ当たり4,000円（卸値）もする全長60センチの成魚まで、各水槽ごとの説明を聞き入った。

ついで安田養殖場に移動し、サヨリに似た自身でコシがあって甘味もあるペヘレイの、にぎり寿司、天婦羅、ほかに安田さんの友人提供の仙台直送の生カキと鮭も賞味。戸外ではこれまた本格的なアサード。友人のナスカ制作部、森ディレクターのガウチョ姿のアサデーロに一同感服。加えて、安田さん寄贈のアルゼンチン・ワイン。あとは、懐かしいフォルクローレ。高野太郎（カンデラリア）さん、サンタフェからやってきたアルゼンチン歌手がガウチョ衣装で、名曲の数々。ツアーの雰囲気が盛り上がったところで、一同輪になって「花まつり」の曲にあわせて踊り回る。安田夫人をはじめ㈱安田社員の献身的な接遇に一同感謝しつつ熊谷駅に向かった。

文化行事のお知らせ

◎東京ドームカップ'96

日 時：7月22日（月） 19:00 ラシング 対 ジュビロ磐田

日 時：7月24日（水） 19:00 ラシング 対 ヴェルディ川崎

会 場：東京ドーム

入場料：SS指定席6,000円、S指定席5,000円、自由席（大人）3,000円、

自由席（中学生以下）1,500円

連絡先：東京ドームカップ事務局 03-5684-8000

◎第2回中南米音楽祭

日 時：8月2日（金） 19:00 開演

会 場：浜離宮朝日ホール（日比谷線：東銀座駅又は築地駅下車徒歩7分）

出演者：松永栄子（ソプラノ）、福田進一（ギター）、ポリー・フェルマン

（駐日アルゼンチン大使夫人、ピアノ）ほか2名

入場料：S席5,000円、A席4,000円（当協会員2割引）

主催及び連絡先：（社）日本楽劇協会 03-3475-0575（石原氏）

後 援：外務省、アルゼンチン共和国大使館

◎ラテン・クラシコの夜（東京シティ・フィル・サマーコンサート）

日 時：8月8日（木） 19:00 開演

会 場：文化村オーチャード・ホール（渋谷駅下車 徒歩7分）

入場料：S席5,000円 A席4,000円、B席3,000円、C席2,000円

（当協会員は1割引）

主 催：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

後 援：アルゼンチン共和国大使館

連絡先：東京シティ・フィル事務局 03-5704-2001（三好氏）

◎フランシスコ・カナロ タンゴ樂団コンサート

日 時：9月22日 14:00 及び 18:00 開演

会 場：サントリーホール（千代田線：赤坂駅下車 徒歩15分）

日 時：9月30日（月） 19:00 開演

会 場：ゆうぼうと簡易保険ホール（JR五反田駅下車 徒歩6分）

出演者：歌手マリア・エウヘニア・ダレ 及び ウーゴ・シルバ

：踊りビクトル・アヨス 及び モニカ

入場料：S席 6,000円、A席 5,000円、B席 4,000円、(当協会員は1割引)
主 催：中部日本放送 後 援：アルゼンチン共和国大使館
連絡先：インターースペース 03-3263-4397 (中井又は高橋氏)

◎チャリティ・ピアノ・コンサート (滞日ラテンアメリカ人労働者への支援)

日 時：10月7日（月） 18:30 開演
会 場：フィリアホール（青葉台東急百貨店5F）
(田園都市線・半蔵門線 青葉台駅下車 徒歩1分)
出演者：イネス・ゴメス・カリージョ (アルゼンチンが誇る女流ピアニスト)
入場料：4,000円 (全自由席)
主 催：サレジオ女性会 後 援：アルゼンチン共和国大使館
連絡先：0467-32-0623、045-903-4045

◎池田光夫 タンゴ演奏会

日 時：10月26日（土） 18:00
会 場：川崎市麻生市民館大ホール (小田急線新百合ヶ丘駅前)
出演者：演奏 池田光夫とロス・アミゴース、歌 香坂優と阿保郁夫
踊り フリオ&ミキ、司会：志摩夕起夫
入場料：4,000円 (税込、全指定席、当協会員は1割引)
主 催：日本タンゴ演奏家協会 (代表池田光夫・日本アルゼンチン協会員)
後 援：アルゼンチン共和国大使館、(社) 日本アルゼンチン協会
連絡先：03-3489-2519

◎第10回タンゴ南米親善の旅ご案内

日 程：8月17日（土） 成田発 RG835
18日（日） ブエノス・アイレス着 RG940
23日（金） 同 発 AR1224
同日 モンデビデオ着
28日（水） 同 発 RG935
30日（金） 成田着 RG836
費 用：お一人様￥580,000円
連絡先：〒415 静岡県下田市柿崎4-13
TEL 558-22-2790、03-3791-1519
木 田 寿 司 (当協会会員)
お取り扱い：(株)旅行俱楽部 (〒150 渋谷区篠谷4-11)
☎ 03-3463-6090

◎マテ茶とラテン音楽を楽しむ旅ご案内

日 程：9月14日（土）成田発 RG835
15日（日）サンパウロ着
17日（火）アスンシオン着 RG902
18日（水）エンカルナシオン着 バス
19日（木）イグアス着 バス
20日（金）ブエノス・アイレス着 AR1705
23日（月）同 発 RG941
25日（水）成田着 RG832

費 用：お一人様 ¥473,000円也（催行人員20名以上）

連絡先：日本ラテンアメリカ文化交流協会

☎ 03-3338-3864 渡部暁美（当協会会員）

お 知 ら せ

◎第18回日本・アルゼンチン経済合同委員会会議の順延

本年11月初旬日本で開催する予定の第18回日本・アルゼンチン経済合同委員会会議は、アルゼンチン側の事情により、来年に順延され、4月7日（月）、8日（火）の両日、東京（会場：ホテル・ニューオータニ予定）において、開催される予定です。

本件照会先：日亞経済委員会事務局（日本商工会議所・国際部内）

電話： 03-3283-7602

◎当協会の会費納入について

平成8年度会費（法人会費、個人正会員、賛助会員）につきましては、既に請求書を夫々の会員各位宛に送付させて頂きましたので、未納の方は宜しくお願ひ申し上げます。

ご存じですか？

◎アルゼンチンへの AFS 留学生

高校生の留学制度。期間は1年、ボランティアの受け入れ家庭に家族の一員として滞在し、現地の高校に通学する。

アルゼンチンの派遣枠は95年5名、96年6名、97年7名。毎年7月に選考試験があり、合格者は翌年1~4月に出発する。

問い合わせは、(財) エイ・エフ・エス日本協会 ☎ 03-5251-0173

◎アルゼンチン国歌ほか

アルゼンチンの国歌（演奏：アルゼンチン陸軍軍楽隊、国立男声合唱団 指揮：ロベルト・サセンテ）ほか愛国歌集のCDを、ア日協会会长・元駐日大使フラギオさんから寄贈を受けました。当協会に保存し、貸し出しいたします。

人 事 往 来

(平成8年4~6月)

1. 来 日

ロベルト・東江 らぶらた報知社長 5月3日~11日
(第37回海外日系人大会出席)

マリア・ビルヒニア・フラギオ（元駐日大使息女） 2月~8月
(海外技術者研修協会研修員)

ブルーノ・ゲルバー（ピアニスト） 5月16日~28日
コルクエラ運輸庁都市交通担当次官 6月9日~15日

2. 訪 ア

国際協力事業団（JICA）第2次ア国経済開発調査
(大来レポートⅡ) 団（10名） 6月17日~30日
団長 河合（財）国際開発センター理事長
木島 国際協力事業団理事
斎木 大来財団日本評議委員会事務局長

3. 帰 国

ロペス・デル・カリル国立アルゼンチン銀行日本事務所長 6月29日

あとがき

次号（第14号）は10月下旬発行予定です。

会報編集委員のプロファイル

本年度の編集委員は下記の方々にご協力いただいています。

藤 本 芳 男 ☎ 03-3436-5280 FAX 03-3436-5240

(財) 世界の動き社 (大使館)

日本国内への広報になる仕事を手伝っており、上記職のほかに富士銀行の顧問をして忙しくしています。

福 島 穆 ☎ 03-5441-6805 FAX 03-5441-6827

NEC ロジスティクス (NEC 駐在員事務所)

NEC の物流会社で海外関係を担当。エル・ヴィエホ・アルマセンが再開されたとか、アルゼンチンへ行こう。

金 井 博 智 ☎ 03-3805-4562 FAX 03-3805-4572

国際マリン・トランスポーティ (大阪商船三井)

商船三井の船舶の管理業務を行っており、たまにアルゼンチンに寄港する船もあり、日ア間の貿易が盛んになるよう願っております。

小 林 晋一郎 ☎ 03-5280-2601 FAX 03-5280-2620

東銀リサーチ・インターナショナル (東銀)

日ア相互理解促進のために、出来るだけ多くの情報を正しく伝えたいと思います。

野 村 秀 治 ☎ 03-3501-4684 FAX 03-3595-3932

(社) 日本アルゼンチン協会 (大阪商船)

メルコスールの急発展、迫りくる食糧危機、アルゼンチンの存在が日を追って大きいものになっているようです。あと1年半で日ア修好100周年。

斉 木 茂 治 ☎ 03-3630-8031 FAX 03-3630-3120

大来財団日本評議委員会事務局長 (三菱商事)

6月まで(財)国際開発センター主任研究員として、JICAのアルゼンチン経済開発調査に従事、98年の日ア修好100年記念事業に参画予定です。

辻 正 隆 ☎ 03-5695-1525 FAX 03-5695-1528

北九州運輸 (日本郵船)

帰国して早5年、駐在生活は過去の想い出になりつつありますが、1ペソ=1\$が未だに続いていることは信じられない驚きです。

渡 部 透 ☎ 03-3501-4684 FAX 03-3595-3932

(社) 日本アルゼンチン協会 (大使館)

帰国して2年半になりますが、らぶらた報知を楽しみに読みながら、日ア友好親善の増進に尽力する所存です。

なお、ほかに薄井康夫 (当協会顧問)、西岡稔 (ダイビル専務) 両氏にもご協力ねがっています。